

「塗装は3回塗りが常識」な理由

【機能の違いによる塗り分けが必要】

塗装にとって重要な役割は、「下地にしっかり密着すること」と「耐久性を確保すること」です。塗料には一長一短があり、通常下塗り材に使われるタイプの樹脂は下地への密着性は高いが耐久性が低く、仕上げ材に使われるタイプの樹脂は耐久性は高いが下地への密着性が低いいため、下塗り材と仕上げ材を分けて塗り重ねる必要が出てきます。

	下地への密着性	耐久性
下塗り材	○	×
仕上げ材	×	○

・・・と言うことは

下地にしっかり密着し、耐久性も高ければ塗り分けの必要はない

【耐久性を確保するために塗り重ねが必要】

塗装をして何年も経った外壁を触ると、手のひらが真っ白になることがあります。これは「チョーキング」と言い、塗膜表面が紫外線等で劣化し、年々薄くなっていくことを意味しています。

塗膜厚が薄いとすぐに塗膜がなくなってしまうため、厚みを確保するために仕上げ材を2回塗り重ねる必要が出てきます。



・・・と言うことは

1回塗りで厚膜で耐久性が確保できれば塗り重ねの必要はない

■ アミコートが1回塗りになるまで

アミコートは約20年の研究により現在の形になりましたが、はじめから1回塗りの塗料だったわけではありません。

アミコートの前進の製品は下塗り材は別途必要ですが、仕上げ材を1回塗りで完了できる（合計2回塗り）製品でした（製品名：イージーガード）。これをさらに進化させ、厚みが取れて耐久性が高く、下地にもしっかり密着する製品「アミコート」が20年の歳月を経てようやく完成しました。

「イージーガード」

3 → 2

下塗り 1回
仕上げ 1回

仕上げ材の厚み・耐久性問題をクリア

「アミコート」

3 → 1

下塗り兼仕上げ 1回

耐久性×下地への密着性問題をクリア